

宮津市の再生の道



2013年12月12日

宮津市長 井上 正嗣

1 宮津市の概要

位置: 京都府北部
面積: 約172.87Km²
人口: 約20,000人
特徴: ①全国有数の観光地 …年間260万人の入込客
 ②日本海に面する都市…豊かな自然
 ③食の王国 …日本三景「天橋立」…丹後コシヒカリ…とり貝、魚、あさり
 ④豊かな歴史文化 …日本ルーツの地…大津とのつながり…多数の古墳

▼少子高齢化、人口の減少、経済力の低下
 ▼交通基盤の整備遅滞

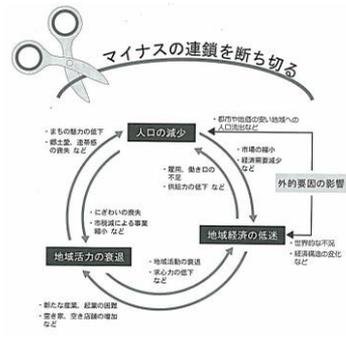


日本三景 天橋立 宮津連続観望し花火大会 宮津カトリック教会

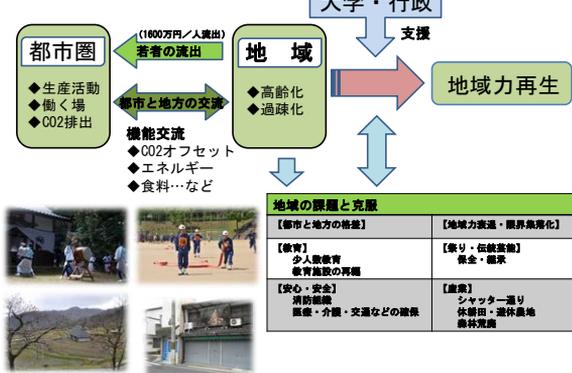
2 宮津市の現状 ~厳しい現実~



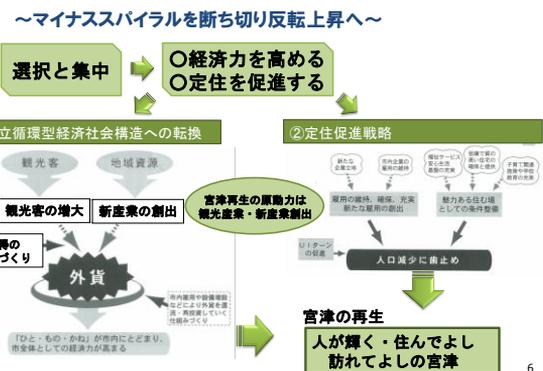
3 マイナススパイラルを断ち切る



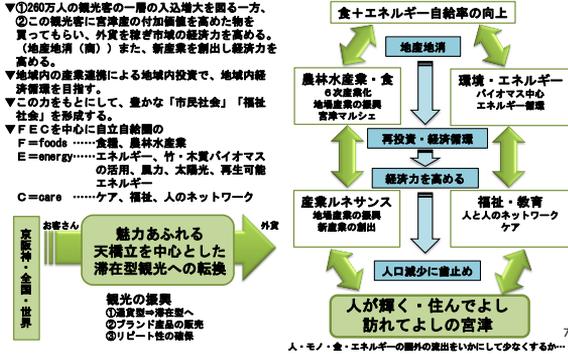
4 地域力の衰退と再生



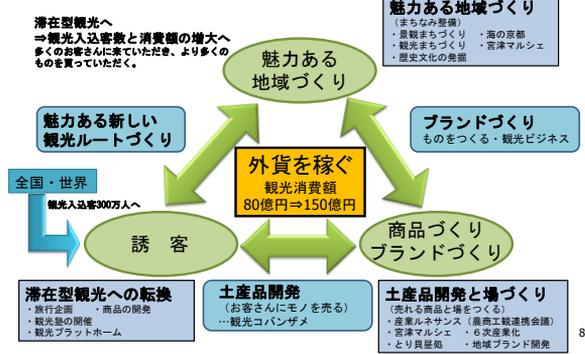
5 宮津再生への戦略



6 経済力を高める自立循環型経済社会への転換と人口減少に歯止めをかける定住戦略



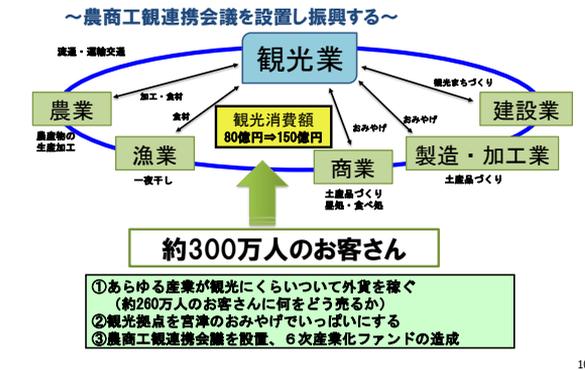
7 観光革命 ~外貨を稼ぐ~ 三位一体の観光振興



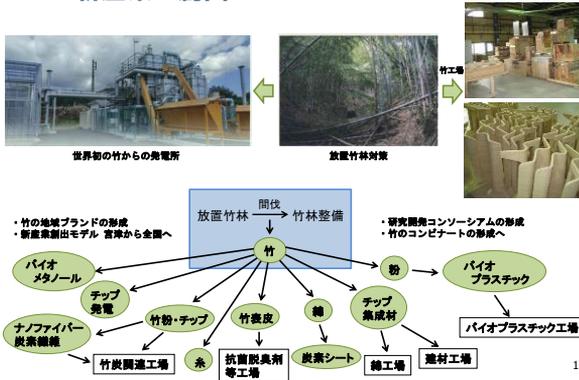
8 「海の都物語」 ~みやづ観光地域づくり~



9 外貨を稼ぐブランド商品づくり(ブランドづくり) ~農工商連携会議を設置し振興する~



10 新産業の創出



11 水の工場 ~ウォーター&ハーブ構想~



12 5万本のオリーブの植樹による宮津再生

○オリーブは健康食品、日本でのオリーブ時代の到来を見通し、10年後、20年後の将来のためにオリーブの樹を植えよう

○かつて、米沢藩の上杉鷹山は、藩の再生のために、
・桑の木 100万本
・うるしの木 100万本
・こうぞの木 100万本 を植えた



○将来の子どもたちのために、宮津の財政再建のために、オリーブを植えよう



○1本当たりの粗収益 8,000円
10アール当たりの栽培本数 50本×8,000円=40万円
(水稲 10万円、温州みかん 40万円、梨 53万円)

○オリーブの日本での年間消費量は3万トンに対し、自給量は15トンとわずか0.05%で今後の市場性大

13

13 地場産業の振興

～6次産業化と地域ブランドの育成～

○煉製品の加工
…ちくわ、カマボコなど **ブランド化**
○水産物のブランド化推進
…とり貝、岩ガキ、アワビ、あさり、ナマコ、干物など
○とり貝屋処
…市内の多くの店で実施



宮津名産の一つ「ちくわ」



水産物加工施設 (田井地区)



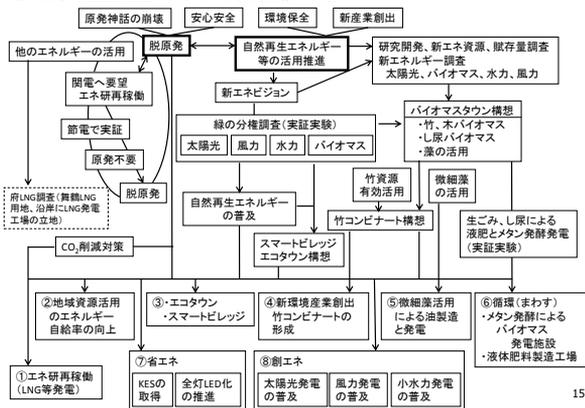
ひものマップ



ブランド化を進める「とり貝」

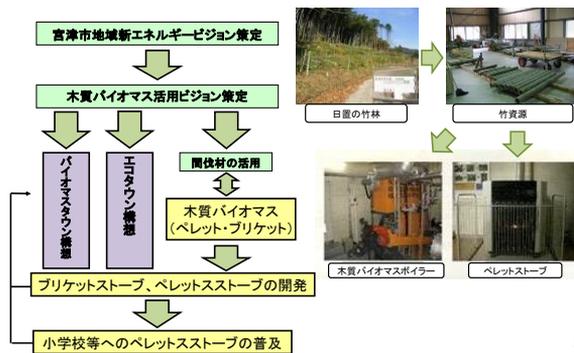
14

14 脱原発と自然再生エネルギーの開発整備への道



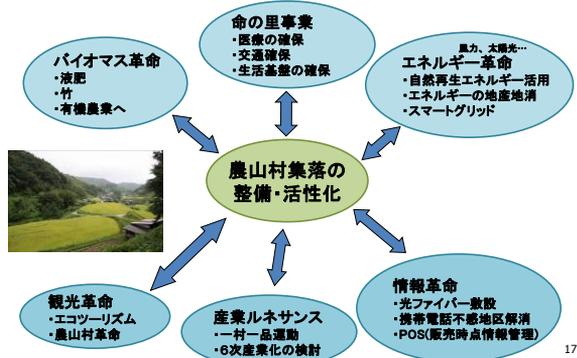
15

○ バイオマスタウン ～エネルギーの地産地消～



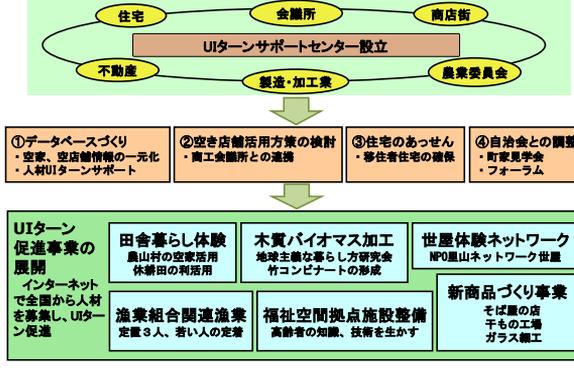
16

15 農山村革命 ～農林水産業の振興～



17

16 定住促進戦略 ～UIターンの推進～



18

17 定住促進戦略 ～健康づくり大運動の展開～

- 少子高齢化と人口減少社会の中では、市民ひとり1人が健康でかつ長寿を全うすることが最も重要
- 歩く健康づくりから始めて保険・医療・福祉などの分野だけでなく、経済・環境・教育・文化・観光・交通・都市基盤・エネルギー・地域づくりなどで総合的な取組みを展開する
- リーダー養成講座…ウオーキングコースづくり等



■1人当たり医療費の推移 (円/人)

H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
182,459	184,156	200,105	205,440	222,506	269,140	302,813
(対前年比)	100.9%	100.9%	108.7%	102.7%	121.0%	112.5%

■65歳以上の要介護認定者の割合 (H22年3月末)

宮津市	20.3%	(伊根町22.0%に続く府下第2位)
…府下平均	…京都市を除く16.4%、京都市を含む17.3%	

19

○子育て支援

■育児支援設備の整備

子どもを連れて外出しやすい環境を整えるため、公共施設にベビーシートなどの育児支援設備を整備

- 【新たに整備した設備】
- スベイベッド 10台
- ベビーカー 25台
- ベビシート 23台



ベビシート

■おやこの広場の充実

- 専用ルームの設置
- …いつでも利用可能に
- 遊具の整備



■児童遊園などに大型遊具を設置

- 府中保育園…アンパンマン号
- 日置保育所…プレイドーム
- 八幡児童遊園…エルトレイン、4人乗りブランコ
- 日置コミュニティ広場…大型すべり台



■Pep Kids Garden



■3人乗り自転車の貸出制度の創設

20台を貸出しし



20

○介護施設の充実

■デイサービスセンター

「はまなす苑」



■新しい特別養護老人ホーム(波路)

(H24春着工、H24秋完成)



■引き続き、由良にも特養を計画

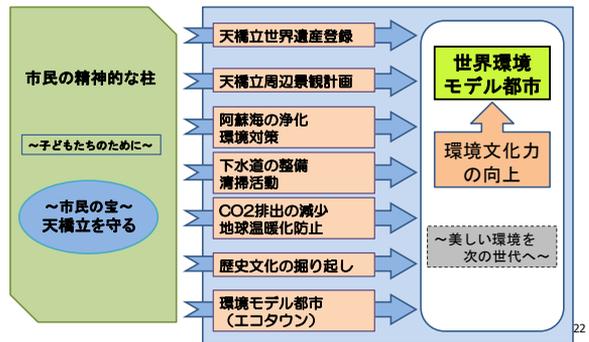


要介護者の方のための介護施設や特別養護老人ホームなどのなお一層の充実が必要。

21

18 環境文化力の向上

～天橋立世界遺産登録を中心に世界の環境モデル都市へ～



22

○天橋立を世界遺産に



- 自然美と歴史の積み重ね
- 多くの文人墨客が訪れ、都人が憧れた精神文化の象徴
- 人の営みのなかで保全されてきた白砂青松



平成20年6月21日に実施された「IYAWD in HAWO天橋立」天橋立をみんなの手でつなぎ、地域の思いを全国、世界へ発信しました。

- 市民の皆さんの一体となった取組(協働)
- 天橋立を世界遺産にする会 他…
- 天橋立周辺の景観計画づくり
- 周辺も含めた資産資源の調査と保全

世界の宝「天橋立」を守り、後世に遺産に伝えていくことが今を生きる我々の責務

23

19 宮津と天橋義塾(1874～1884)に学ぶ

～教育の先進地 宮津 進取の取組み～

○明治という時代の始まりに伴い、宮津藩は消滅。城下町「宮津」も往時の繁栄に陰りを見せる中、新時代の機軸に奮闘した人々により「天橋義塾」が開校された。

○明治6年、『國民哲学』の精神に基づき、宮津には宮津校(中橋広小路)・尽道校(魚屋町横町)という二つの小学校が開校したが、その上級の学校はなかった。そこで、有志の人々が相談して、明治8年7月に開校したのが「天橋義塾」である。義塾の運営には、栗坂直義(小笠原信)・灰田正彦といった旧藩士をはじめ、多くの進化した人材が集まり尽力した。彼等は、初め宮津校(旧宮津藩文学所)の一部を間借りし使用したが、一時、律師の小笠原信の生家(小笠原家)に移り、最後に現在の宮津小学校運動場北側に新築した。

○天橋義塾の設立には、明治の世を退えて新しい勉強をしたいという青少年の願いと、新しい政治を求める人々の願いに応えるという二つの意味があった。

○天橋義塾の経営は、社員の拠出金と生徒の月謝で賄われたが、当時の宮津に自ら金を募り、自ら学んで新しい学問と政治を開こうとした私学校「天橋義塾」があったことは誇るべきことである。

○社訓第1条には「本社ノ目的ハ改進黨ヲ以テ人材ヲ教育シ兼テ丹後國民ノ智識ヲ開発シ、産業ヲ興隆シ、公衆ノ福利ヲ増進スルニアリ」と記され、丹後・丹波の自由民権運動の拠点として地域活性化にも大きく貢献した。

○志高き若者の熱意は中央まで響き、天橋義塾は産成義塾、立志社と並び「日本三大義塾」とも呼ばれた。

24